

# 11課

## キリストと共に生きる

3月14日

安息日午後

3月7日

暗証聖句

これらいっさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。(コロサイ 3:14、口語訳)

これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。(コロサイ 3:14、新共同訳)

今週の聖句

コロサイ 3:1~17、ローマ 1:18、ローマ 6:1~7、エフェソ(エペソ)4:22~24、申命記 7:6~8、サムエル記上 16:23

今週のテーマ

しばしば、天のことばかり心に留めないようにしなさい、と勧められます。そうしないと、地上で何の役にも立たなくなってしまうというのです。ある意味では真実ですが、同じくらい重要な考えを、パウロはコロサイ3章で強調しています。もし私たちが地上のことばかり心に留めているなら、主にとって天で何の役にも立たなくなってしまうというのです。

パウロは、天に由来し、「キリストと共に復活させられた」[口語訳「キリストと共によみがえらされた」](コロ 3:1)人だけが理解できる、多くの実践的で実生活に根差した原則に私たちの注意を向けています。彼の勧告は極めて現実的で、教会内だけでなく、すべての人間関係を豊かにしてくれる原則です。

イエスは、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである」[口語訳「敵を愛し、迫害する者のために祈れ。こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからである。」](マタ 5:44、45)と言われました。

不可能に思えるでしょうか。人間的には不可能です。私たちは、本当に神のために生きられるようになる前に、死ぬ必要があります。だからこそ、地上で天の父にとって役に立ちたいと願うなら、天に心を留めなければなりません。

今週は、キリストと共に生きることで、今も、そして永遠に、変化をもたらすことのできる方法を見ていきます。

74

### コロ3章 (新共同訳)

3:1 さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。

3:2 上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないうにしないなさい。

3:3 あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。

3:4 あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。

3:5 だから、地上的なもの、すなわち、みだらな行い、不潔な行い、情欲、悪い欲望、および貪欲を捨て去りなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。

3:6 これらのことのゆえに、神の怒りは不従順な者たちに下ります。

3:7 あなたがたも、以前このようなことの中にいたときには、それに従って歩んでいました。

3:8 今は、そのすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい。

3:9 互いこうそをついてはなりません。古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、

3:10 造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです。

3:11 そこには、もはや、ギリシア人とユダヤ人、割礼を受けた者と受けていない者、未開人、スキタイ人、奴隷、自由な身分の者の区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられるのです。

3:12 あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。

### コロ3章 (口語訳)

3:1 このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。

3:2 あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。

3:3 あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。

3:4 わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう。

3:5 だから、地上の肢体、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪欲、また貪欲を殺してしまいなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。

3:6 これらのことのために、神の怒りが下るのである。

3:7 あなたがたも、以前これらのうちに日を過ごしていた時には、これらのことをして歩いていた。

3:8 しかし今は、これらいつさいのことを捨て、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を、捨ててしまいなさい。

3:9 互いこうそを言ってはならない。あなたがたは、古き人をその行いと一緒に脱ぎ捨て、

3:10 造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着たのである。

3:11 そこには、もはやギリシヤ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開の人、スクテヤ人、奴隷、自由人の差別はない。キリストがすべてであり、すべてのものの中にいますのである。

3:12 だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。

3:13 互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。

3:14 これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。

3:15 また、キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。この平和にあずからせるために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。いつも感謝していなさい。

3:16 キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。

3:17 そして、何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい。

3:18 妻たちよ、主を信じる者にふさわしく、夫に仕えなさい。

3:19 夫たちよ、妻を愛しなさい。つらく当たってはならない。

3:20 子供たち、どんなことについても両親に従いなさい。それは主に喜ばれることです。

3:21 父親たち、子供をいらだたせてはならない。いじけるといけないからです。

3:22 奴隷たち、どんなことについても肉による主人に従いなさい。人にへつらおうとしてうわべだけで仕えず、主を畏れつつ、真心を込めて従いなさい。

3:23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい。

3:24 あなたがたは、御国を受け継ぐという報いを主から受けることを知っています。あなたがたは主キリストに仕えているのです。

3:25 不義を行う者は、その不義の報いを受けます。そこには分け隔てはありません。

3:13 互いに忍びあい、もし互いに責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。

3:14 これらいっさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。

3:15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。あなたがたが召されて一体となったのは、このためでもある。いつも感謝していなさい。

3:16 キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくして互いに教えまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい。

3:17 そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。

3:18 妻たる者よ、夫に仕えなさい。それが、主にある者にふさわしいことである。

3:19 夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない。

3:20 子たる者よ。何事についても両親に従いなさい。これが主に喜ばれることである。

3:21 父たる者よ、子供をいらだたせてはいけない。心がいじけるかも知れないから。

3:22 僕たる者よ、何事についても、肉による主人に従いなさい。人にへつらおうとして、目先だけの勤めをするのではなく、真心をこめて主を恐れつつ、従いなさい。

3:23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。

3:24 あなたがたが知っているとおりの、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。

3:25 不正を行う者は、自分の行った不正に対して報いを受けるであろう。それには差別扱いはない。

マタ 5:44、45 (新共同訳)

5:44 しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

5:45 あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。

マタ 5:44、45 (口語訳)

5:44 しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。

5:45 こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからである。

## 日曜日 3月8日 天に心を留める

問1 コロサイ 3:1~4 を読んでください。パウロは、天に心を留めるために必要な条件として、どのようなことを挙げていますか。それはどのような意味だと思えますか。

山の頂からは、周囲に広がる広大な景色を見渡すことができます。太古の昔から、神とのより親密な体験を求める人々が山をよく訪れてきました(詩編〔詩篇〕121:1、2 参照)。異教徒でさえ、神々と会うという同様の目的のために、ジググラトと呼ばれる塔を建設しました。興味深いことに、アブラムが去るように命じられたウルの町には、周囲数キロから見える非常に大きなジググラトがありました。しかし、高い所に登るだけでは、霊的な意味で天に近づくことはできません。人間の努力では決してできないのです。

そうではなく、キリストと共に死に、キリストと共に復活させられるという恵みの奇跡(バプテスマとして比喩的に描かれている〔コロ 2:12、13〕)によってのみ、私たちは天に近づくことが可能になります。

コロサイ3章の冒頭から、上にあるもの、つまり天にあるものが次のように繰り返し強調されていることに注目してください。「上にあるもの」、「キリストが……おられます」、「上にあるもの」、「キリストと共に神の内に」、「キリストと共に栄光に」〔口語訳「上にあるもの」、「キリストが……おられる」、「上にあるもの」、「キリストと共に神のうちに」、「キリストと共に栄光のうちに」〕(コロ 3:1~4)。

確かに、クリスチャン生活には説明のつかないことが多くあります。どう見ても同じ人間であり、そのような生と死の経験がないのに、人はいかにして本当に「死に」、「復活させられる(よみがえらされる)」のでしょうか。聖霊の影響を受けていない自然の心には、理解できないことが多くあります。しかし、霊的な心を持つ人にとっては、罪に対して死ぬことも、キリストと共に復活させられることも真の現実です。なぜなら、彼らは、神から約束された新しい心を受けたからです。賛美歌がこう断言するとおりです。「主は主は/とこしえまで/わたしのところに/生きています」

(「よみがえられた」『希望の讃美歌』91番)。

それにもかかわらず、パウロがこのような命令を出しているのは、この霊的な命が常に新たにされる必要があるからです(Ⅱコリ 4:16 参照)。実際、私たちは信仰を捨て、滅びてしまうこともありえます。また、この世において、私たちは誘惑を受けずにはられません。

したがって、私たちは日々、「上にあるものを求め(る)」(コロ 3:1)ことを選択しなければなりません。私たちの永遠の命は、「キリストと共に神の内に隠されているのです」[口語訳「キリストと共に神のうちに隠されているのである」](同 3:3)が、その命の外面的なあらわれは、決して隠されているものではありません。

### 【参考】英語テキストにある続きの文

**Where are your thoughts: usually above or usually below? If the latter, how do you change their direction?**

あなたの思いは、いつも上(天)にありますか、それとも下(地上)にありますか。もし後者なら、その向きをどう変えますか。

75

#### コロ 3:1~4 (新共同訳)

3:1 さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。  
3:2 上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。

3:3 あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。

3:4 あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。

#### 詩 121:1、2 (新共同訳)

121:1 【都に上る歌。】

目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。

121:2 わたしの助けは来る/天地を造られた主のもとから。

#### コロ 2:12、13 (新共同訳)

2:12 洗礼によって、キリストと共に葬られ、また、キリストを死者の中から復活させた神の力を信じて、キリストと共に復活させられたのです。

#### コロ 3:1~4 (口語訳)

3:1 このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。  
3:2 あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。

3:3 あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。

3:4 わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう。

#### 詩 121:1、2 (口語訳)

121:1 わたしは山にむかって目をあげる。わが助けは、どこから来るであろうか。

121:2 わが助けは、天と地を造られた主から来る。

#### コロ 2:12、13 (口語訳)

2:12 あなたがたはバプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされたのである。

2:13 肉に割礼を受けず、罪の中にいて死んでいたあなたがたを、神はキリストと共に生かしてくださいました。神は、わたしたちの一切の罪を赦し、

Ⅱコリ 4:16 (新共同訳)

14:16 だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。

2:13 あなたがたは、先には罪の中にあり、かつ肉の割礼がないままで死んでいた者であるが、神は、あなたがたをキリストと共に生かし、わたしたちのいっさいの罪をゆるして下さった。

Ⅱコリ 4:16 (口語訳)

14:16 だから、わたしたちは落胆しない。たといわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされていく。

月曜日 3月9日 地上的なものをやめる

今日、私たちは多くのスローガンを耳にします。「戦争を終わらせよう!」「森林破壊をやめよう!」「核兵器をなくそう!」。しかし、「地上的なものをやめよう!」というスローガンは、おそらく一度も聞いたことがないでしょう。それは、この世界の感覚にまったくそぐわないからです。もちろん、ほかのスローガンやその主張が間違っているというわけではありません、ただ、永遠が間近であることを考えると、それらは非常に近視眼的です。私たちはもっと高いところ、永遠の高みに焦点を合わせる必要があります。

問2 コロサイ 3:5、6 を読んでください(ロマ 6:1~7 も参照)。自己や地上的なもの(地上の肢体)に死に、「上にあるもの」(コロ 3:1)に向かって生きるとは、どういうことであり、私たちはそれをいかに体験するのでしょうか。

私たちは、霊的にはキリストと共に死にましたが、私たちの「肢体」(口語訳、コロ 3:5)、つまり私たちの体と心が私たちにもたらす誘惑は、捨て去る(殺してしまう)必要があります。

しかし、この命令に関連して、私たちは二つのことを認識すべきです。

第一に、コロサイ3:1でパウロが用いているギリシア語の形は、私たちが実際にキリストと共に復活したことを前提としています。第二に、同3:5の命令は、その事実の結果です(「だから」)。私たちが地上的なもの(みだらな行い[不品行]、不潔な行い[汚れ]、情欲、悪い欲望[悪欲]、貪欲など)を捨て去る(殺してしまう)ことができるのは、私たちがキリストと共に復活し、キリストの霊的な命によって、これらのものを私たちの心と生活から追い出す力を持っているからにほかなりません。

興味深いことに、コロサイ3:6に出てくる「神の怒り」という語句とまったく同じギリシア語がほかで用いられているのは、ローマ1:18においてだけです。神は、人々が邪悪なことをするにまかせられるので、神の怒りは、「不従順な者たちに下り」

(コロ 3:6)まず(黙 6:16, 17 参照)。ローマ 1:18でパウロは、「不信心と不義」に言及し、「不潔なこと」(コロ 3:5に出てくるギリシア語と同じ【口語訳「汚れ」])と、「心の欲望によって……その体を辱め(る)」【口語訳「心の欲情にかられ、自分のからだを…はずかしめ(る)」】(ロマ 1:24)人々を極めて具体的に同一視しています。

彼らは、どのように自分の体を辱めるのでしょうか。第一に、創造主を認めようとしなないことによってですが、「恥ずべき情欲」(ロマ 1:26)によっても辱めます。なぜなら、「女は自然の関係を自然にもとるものに変え、同じく男も、女との自然の関係を捨てて、互いに情欲を燃やし、男どうしで恥ずべきことを行(う)」【口語訳「彼らの中の女は、その自然の関係を不自然なものに代え、男もまた同じように女との自然の関係を捨てて、互にその情欲の炎を燃やし、男は男に対して恥ずべきことをな(す)」】(ロマ 1:26, 27)からです。

### 【参考】英語テキストにある続きの文

How do we follow the words “mortify therefore your members which are upon the earth” (Col. 3:5) ?

「だから、地上的なもの…を捨て去りなさい」【口語訳「だから、地上の肢体…を殺してしまいなさい」】(コロ 3:5)という言葉に私たちが従うには、どうすればよいのでしょうか。

76

#### コロ 3:5、6 (新共同訳)

3:5 だから、地上的なもの、すなわち、みだらな行い、不潔な行い、情欲、悪い欲望、および貪欲を捨て去りなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。

3:6 これらのことのために、神の怒りは不従順な者たちに下ります。

#### ロマ 6:1～7 (新共同訳)

6:1 では、どういうことになるのか。恵みが増すようにと、罪の中にとどまるべきだろうか。

6:2 決してそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なおも罪の中に生きることができのでしょうか。

6:3 それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。

6:4 わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。

#### コロ 3:5、6 (口語訳)

3:5 だから、地上の肢体、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪欲、また貪欲を殺してしまいなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。

3:6 これらのことのために、神の怒りが下るのである。

#### ロマ 6:1～7 (口語訳)

6:1 では、わたしたちは、なんと言おうか。恵みが増し加わるために、罪にとどまるべきであろうか。

6:2 断じてそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なお、その中に生きておれるだろうか。

6:3 それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。

6:4 すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。

6:5 もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。

6:6 わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。

6:7 死んだ者は、罪から解放されています。

**コロ 3:1 (新共同訳)**

3:1 さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。

**ロマ 1:18 (新共同訳)**

1:18 不義によって真理の働きを妨げる人間のあらゆる不信心と不義に対して、神は天から怒りを現されます。

**黙 6:16、17 (新共同訳)**

6:16 山と岩に向かって、「わたしたちの上に覆いかぶさって、玉座に座っておられる方の顔と小羊の怒りから、わたしたちをかくまってくれ」と言った。

6:17 神と小羊の怒りの大いなる日が来たからである。だれがそれに耐えられるであろうか。

**ロマ 1:24~27 (新共同訳)**

1:24 そこで神は、彼らが心の欲望によって不潔なことをするにまかせられ、そのため、彼らは互いにその体を辱めました。

1:25 神の真理を偽りに替え、造り主の代わりに造られた物を拜んでこれに仕えたのです。造り主こそ、永遠にほめたたえられるべき方です、アーメン。

1:26 それで、神は彼らを恥ざべき情欲にまかせられました。女は自然の関係を自然にもとるものに変え、

1:27 同じく男も、女との自然の関係を捨てて、互いに情欲を燃やし、男どうしで恥ざべきことを行い、その迷った行いの当然の報いを身に受けています。

6:5 もしわたしたちが、彼に結びついてその死の様にひとしくなるなら、さらに、彼の復活の様にもひとしくなるであろう。

6:6 わたしたちは、この事を知っている。わたしたちの内の古き人はキリストと共に十字架につけられた。それは、この罪のからだが減び、わたしたちがもはや、罪の奴隷となることがないためである。

6:7 それは、すでに死んだ者は、罪から解放されているからである。

**コロ 3:1 (口語訳)**

3:1 このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。

**ロマ 1:18 (口語訳)**

1:18 神の怒りは、不義をもって真理をはばもうとする人間のあらゆる不信心と不義とに対して、天から啓示される。

**黙 6:16、17 (口語訳)**

6:16 そして、山と岩とにむかって言った、「さあ、われわれをおおって、御座にいますかたの御顔と小羊の怒りとから、かくまってくれ。

6:17 御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だれが、その前に立つことができようか」。

**ロマ 1:24~27 (口語訳)**

1:24 ゆえに、神は、彼らが心の欲情にかられ、自分のからだを互にはずかしめて、汚すままに任せられた。

1:25 彼らは神の真理を変えて虚偽とし、創造者の代りに被造物を拜み、これに仕えたのである。創造者こそ永遠にほむべきものである、アーメン。

1:26 それゆえ、神は彼らを恥ざべき情欲に任せられた。すなわち、彼らの中の女は、その自然の関係を不自然なものに代え、

1:27 男もまた同じように女との自然の関係を捨てて、互にその情欲の炎を燃やし、男は男に対して恥ざべきことをなし、そしてその乱行の当然の報いを、身に受けたのである。

問3 コロサイ 3:6~11 を読んでください。パウロはこの一連の考えを、どのように続けているでしょうか。

コロサイ3:8の最初の言葉(「今は」)は、死から生への劇的で決定的な変化を示しています。ギリシア語の「今は」という言葉は、強調されています。あなたがたはキリストと共に復活し、上にあるものを求めているのだから、今、あなたがたの現在の生活は、以前の生活とは著しい違いを示すはずだというのです。「地上的なもの」〔口語訳「地上の肢体」〕(コロ 3:5)を捨て去ったのだから、「今は、……怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい」〔口語訳「今は、……怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を、捨ててしまいなさい」〕(同 3:8)。

怒りや憤りはいずれも、イエスがそうであるように(マコ 3:5、黙 6:16)、罪に対する神の正しい反応を言いあらわしています(昨日の研究参照)。一方私たちは、「聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。人の怒りは神の義を実現しない」〔口語訳「聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。人の怒りは、神の義を全うするものではない」〕(ヤコ 1:19、20)と勧められています。悪意は他人の不幸を望み、そしりは名誉を傷つけます。パウロはまた、恥ずべき卑猥な言葉も非難し、最後に、互いに嘘をつくことを禁じています(レビ 19:11、18と比較)。「古い人をその行いと共に脱ぎ捨て(た)」〔口語訳「古き人をその行いと一緒に脱ぎ捨て(た)」〕(コロ 3:9)からです。

問4 パウロは、「新しい人」に対比して「古い人」という言葉で、何を意味しているのでしょうか(ロマ 6:6、エフェ[エペ]4:22~24 参照)。

パウロが古い人から新しい人への変化をあらわすために用いている動詞は、あたかも汚れた古い服を脱ぎ捨て、白い新しい服を着せられたかのように、着替えを想起させます(ゼカ 3:4と比較)。古いものと新しいものという同様の区別は、古い契約と新しい契約に関してもなされており、前者には、外面的な文字の律法という特徴があり、後者には、聖霊によって心に刻まれた律法という特徴があります(Ⅱコリ 3:4~18)。

これらの比喩は、パウロが「新しく創造された者」〔口語訳「新しく造られた者」〕(Ⅱコリ 5:17)と呼ぶ回心とその効果を説明しています。キリストは見えない神の姿〔口語訳「見えない神のかたち」〕(コロ 1:15)であり、私たちはその「造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至(り)」(同 3:10、口語訳)ます。御言葉を通してキリストの知識を得ることで、「栄光から栄光へと、主と同じ姿に」(Ⅱコリ 3:18)変えられるので

す。天国の住民であるがゆえに、もはや私たちに隔ての壁はありません(コロ3:11)。

77

**コロ3:6~11 (新共同訳)**

3:6 これらのことのゆえに、神の怒りは不従順な者たちに下ります。

3:7 あなたがたも、以前このようなことの中にいたときには、それに従って歩んでいました。

3:8 今は、そのすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい。

3:9 互いうそをついてはなりません。古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、

3:10 造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです。

3:11 そこには、もはや、ギリシア人とユダヤ人、割礼を受けた者と受けていない者、未開人、スキタイ人、奴隷、自由な身分の者の区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられるのです。

**マコ3:5 (新共同訳)**

3:5 そこで、イエスは怒って人々を見回し、彼らのかたくなな心を悲しみながら、その人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。伸ばすと、手は元どおりになった。

**黙6:16 (新共同訳)**

6:16 山と岩に向かって、「わたしたちの上に覆いかぶさって、玉座に座っておられる方の顔と小羊の怒りから、わたしたちをかくまってくれ」と言った。

**ヤコ1:19、20 (新共同訳)**

1:19 わたしの愛する兄弟たち、よくわきまえていなさい。だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。

1:20 人の怒りは神の義を実現しないからです。

**レビ19:11 (新共同訳)**

19:11 あなたたちは盗んではならない。うそをついてはならない。互いに欺いてはならない。

**コロ3:6~11 (口語訳)**

3:6 これらのことのために、神の怒りが下るのである。

3:7 あなたがたも、以前これらのうちに日を過ごしていた時には、これらのことをして歩いていた。

3:8 しかし今は、これらいっさいのことを捨て、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を、捨ててしまいなさい。

3:9 互いうそを言ってはならない。あなたがたは、古き人をその行いと一緒に脱ぎ捨て、

3:10 造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着たのである。

3:11 そこには、もはやギリシヤ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開の人、スクテヤ人、奴隷、自由人の差別はない。キリストがすべてであり、すべてのものの中にいますのである。

**マコ3:5 (口語訳)**

3:5 イエスは怒りを含んで彼らを見まわし、その心のかたくなのを嘆いて、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、その手は元どおりになった。

**黙6:16 (口語訳)**

6:16 そして、山と岩とにむかって言った、「さあ、われわれをおおって、御座にいますかたの御顔と小羊の怒りとから、かくまってくれ。

**ヤコ1:19、20 (口語訳)**

1:19 愛する兄弟たちよ。このことを知っておきなさい。人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。

1:20 人の怒りは、神の義を全うするものではないからである。

**レビ19:11 (口語訳)**

19:11 あなたがたは盗んではならない。欺いてはならない。互に偽ってはならない。

**レビ 19:18 (新共同訳)**

19:18 復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。

**ロマ 6:6 (新共同訳)**

6:6 わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。

**エフェ 4:22~24 (新共同訳)**

4:22 だから、以前のような生き方をして情欲に迷われ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、

4:23 心の底から新たにされて、

4:24 神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。

**ゼカ 3:4 (新共同訳)**

3:4 御使いは自分に仕えている者たちに向かって言った。「彼の汚れた衣を脱がせてやりなさい。」また、御使いはヨシユアに言った。「わたしはお前の罪を取り去った。晴れ着を着せてもらいなさい。

**II コリ 3:4~18 (新共同訳)**

3:4 わたしたちは、キリストによってこのような確信を神の前で抱いています。

3:5 もちろん、独りで何かできるなどと思う資格が、自分にあるということではありません。わたしたちの資格は神から与えられたものです。

3:6 神はわたしたちに、新しい契約に仕える資格、文字ではなく霊に仕える資格を与えてくださいました。文字は殺しますが、霊は生かします。

3:7 ところで、石に刻まれた文字に基づいて死に仕える務めさえ栄光を帯びて、モーセの顔に輝いていたつかの間の栄光のために、イスラエルの子らが彼の顔を見つめないほどであったとすれば、

3:8 霊に仕える務めは、なおさら、栄光を帯びているはずではありませんか。

3:9 人を罪に定める務めが栄光をまとうていたとすれば、人を義とする務めは、

**レビ 19:18 (口語訳)**

19:18 あなたはあだを返してはならない。あなたの民の人々に恨みをいだいてはならない。あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない。わたしは主である。

**ロマ 6:6 (口語訳)**

6:6 わたしたちは、この事を知っている。わたしたちの内の古き人はキリストと共に十字架につけられた。それは、この罪のからだが減び、わたしたちがもはや、罪の奴隷となることがないためである。

**エペ 4:22~24 (口語訳)**

4:22 すなわち、あなたがたは、以前の生活に属する、情欲に迷って滅び行く古き人を脱ぎ捨て、

4:23 心の深みまで新たにされて、

4:24 真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。

**ゼカ 3:4 (口語訳)**

3:4 み使は自分の前に立っている者どもに言った、「彼の汚れた衣を脱がせなさい」。またヨシユアに向かって言った、「見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう」。

**II コリ 3:4~18 (口語訳)**

3:4 こうした確信を、わたしたちはキリストにより神に対していただいている。

3:5 もちろん、自分自身で事を定める力が自分にある、と言うのではない。わたしたちのこうした力は、神からきています。

3:6 神はわたしたちに力を与えて、新しい契約に仕える者とされたのである。それは、文字に仕える者ではなく、霊に仕える者である。文字は人を殺し、霊は人を生かす。

3:7 もし石に彫りつけた文字による死の務が栄光のうちに行為れ、そのためイスラエルの子らは、モーセの顔の消え去るべき栄光のゆえに、その顔を見つめることができなかつたとすれば、

3:8 まして霊の務は、はるかに栄光あるものではなからうか。

3:9 もし罪を宣告する務が栄光あるものだとなれば、義を宣告する務は、はるか

なおさら、栄光に満ちあふれています。  
3:10 そして、かつて栄光を与えられたものも、この場合、はるかに優れた栄光のために、栄光が失われています。

3:11 なぜなら、消え去るべきものが栄光を帯びていたのなら、永続するものは、なおさら、栄光に包まれているはずだからです。

3:12 このような希望を抱いているので、わたしたちは確信に満ちあふれてふるまっております。

3:13 モーセが、消え去るべきものの最後をイスラエルの子らに見られまいとして、自分の顔に覆いを掛けたようなことはしません。

3:14 しかし、彼らの考えは鈍くなってきました。今日に至るまで、古い契約が読まれる際に、この覆いは除かれずに掛かったままなのです。それはキリストにおいて取り除かれるものだからです。

3:15 このため、今日に至るまでモーセの書が読まれるときは、いつでも彼らの心には覆いが掛かっています。

3:16 しかし、主の方に向き直れば、覆いは取り去られます。

3:17 ここでいう主とは、“霊”のことで、主の霊のおられるところに自由があります。

3:18 わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。

**Ⅱコリ 5:17 (新共同訳)**

5:17 だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。

**コロ 1:15 (新共同訳)**

1:15 御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。

に栄光に満ちたものである。

3:10 そして、すでに栄光を受けたものも、この場合、はるかにまさった栄光のまえに、その栄光を失ったのである。

3:11 もし消え去るべきものが栄光をもって現れたのなら、まして永存すべきものは、もっと栄光のあるべきものである。

3:12 こうした望みをいだいているので、わたしたちは思いきって大胆に語り、

3:13 そしてモーセが、消え去っていくものの最後をイスラエルの子らに見られまいとして、顔におおいをかけたようなことはしない。

3:14 実際、彼らの思いは鈍くなっていた。今日に至るまで、彼らが古い契約を朗読する場合、その同じおおいが取り去られないままに残っている。それは、キリストにあってはじめて取り除かれるのである。

3:15 今日に至るもなお、モーセの書が朗読されるたびに、おおいが彼らの心にかかっている。

3:16 しかし主に向く時には、そのおおいは取り除かれる。

3:17 主は霊である。そして、主の霊のあるところには、自由がある。

3:18 わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。

**Ⅱコリ 5:17 (口語訳)**

5:17 だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。

**コロ 1:15 (口語訳)**

1:15 御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。

パウロは、私たちがキリストのもとへ行くときに取り除かれ、捨て去られる悪しき習慣や否定的な性質について述べたあと、まるで闇から光へ移るかのよう、肯定的な話を続けます。

問5 コロサイ 3:12~14 を読んでください。信者はどのように説明されていますか。その説明は、信者が「身に着ける」べき性質と、いかに関係しているとあなたは思いますか。

神の特別な民となり、神のご性質(ご品性)を反映するように召されたイスラエルと同様、イエスを信じる者たちは、「神に選ばれた者」(コロ 3:12、口語訳)です。しかし、すべての人がこの召しに応じるわけではありません。イエスが言われたように、「招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない」〔口語訳「招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない」〕(マタ 22:14、同 24:22、24、31と比較)のです。また、イスラエルと同様、信者は神に「愛され」ており、「聖なる」ものです(申 7:6~8)。この特権には、「あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝える」〔口語訳「暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝える」〕(1ペト〔ペテ〕2:9)という重要な責任が伴います。私たちは今、いかに生きるかによって、その責任を果たすのです。

パウロが述べた八つの資質は、すばらしいリストです！「憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容……互いに忍び合い、……赦し合いなさい。……これらすべてに加えて、愛」〔口語訳「あわれみの心、慈愛、謙そん、柔和、寛容……互に忍びあい、……ゆるし合いなさい。……これらいっさいのものの上に、愛」〕(コロ 3:12~14)。これらは、キリストに結びついた心からしか生まれません。なぜなら、それらがキリストのご品性と、彼が私たちをいかに扱ってこられたのかをあらわしているからです。私たちは、「主があなたがたを赦してくださったように」〔口語訳「主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように」〕、他者を赦さねばなりません(同 3:13)。愛は、「すべてを完成させるきずな」〔口語訳「すべてを完全に結ぶ帯」〕(同 3:14)です。なぜなら、私たちに對する神の愛こそが、私たちを神に結びつけ、私たちが他者を心から愛せるようにするからです(1ヨハ 4:11、12)。

これらの資質は、私たちの関係に二通りの影響を与えます。第一に、愛、憐れみ、慈愛、赦しを他者に示すことは、自分と相手を祝福します。他者を愛し、祝福することで、心が満たされます。人々は通常、同じように応じてくれるので、私たちは神の憐れみと赦しを受け続けるでしょう(マタ 5:7、6:14)。第二に、そうすることは、神の恵みの力を示すがゆえに、神に栄光を帰し、他者がイエスを信じるように

促します。「無我の生活の感化ほどカのあるものはない。福音に対して好感を抱かせる最も強い証しは、愛し、愛されるクリスチャンである」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング』新装版 314 ページ)。

**【参考】英語テキストにある文**

**How well are you representing Jesus in the way you treat others, especially those who may be unkind to you?**

他者に対して、特にあなたに優しくしてくれない人々に接する中で、あなたはかによくイエス様を表しているでしょうか。

79

**コロ 3:12~14 (新共同訳)**

3:12 あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。

3:13 互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。

3:14 これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。

**マタ 22:14 (新共同訳)**

22:14 招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない。」

**マタ 24:22、24、31 (新共同訳)**

24:22 神がその期間を縮めてくださなければ、だれ一人救われない。しかし、神は選ばれた人たちのために、その期間を縮めてくださるであろう。

24:24 偽メシアや偽預言者が現れて、大きなしるしや不思議な業を行い、できれば、選ばれた人たちをも惑わそうとするからである。

24:31 人の子は、大きなラッパの音を合図にその天使たちを遣わす。天使たちは、天の果てから果てまで、彼によって選ばれた人たちを四方から呼び集める。」

**申 7:6~8 (新共同訳)**

7:6 あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地のおもてのすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。

**コロ 3:12~14 (口語訳)**

3:12 だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。

3:13 互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。

3:14 これらいっさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。

**マタ 22:14 (口語訳)**

22:14 招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない。」

**マタ 24:22、24、31 (口語訳)**

24:22 もしその期間が縮められないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選民のためには、その期間が縮められるであろう。

24:24 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。

22:31 また、彼は大きなラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。

**申 7:6~8 (口語訳)**

7:6 あなたはあなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地のおもてのすべての民のうちからあなたを選んで、自分の宝の民とされた。

6:7 主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。

6:8 ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである。

**I ペト 2:9 (新共同訳)**

2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです。

**I ヨハ 4:11、12 (新共同訳)**

4:11 愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

4:12 いまだかつて神を見た者はいませぬ。わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまってくださり、神の愛がわたしたちの内で全うされているのです。

**マタ 5:7 (新共同訳)**

5:7 憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。

**マタ 6:14 (新共同訳)**

6:14 もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。

6:7 主があなたがたを愛し、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの国民よりも数が多かったからではない。あなたがたはよろずの民のうち、もっとも数の少ないものであった。

6:8 ただ主があなたがたを愛し、またあなたがたの先祖に誓われた誓いを守ろうとして、主は強い手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王バロの手から、あがない出されたのである。

**I ペテ 2:9 (口語訳)**

2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。

**I ヨハ 4:11、12 (口語訳)**

4:11 愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互いに愛し合うべきである。

4:12 神を見た者は、まだひとりもない。もしわたしたちが互いに愛し合うなら、神はわたしたちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。

**マタ 5:7 (口語訳)**

5:7 あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。

**マタ 6:14 (口語訳)**

6:14 もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。

**木曜日 3月12日 新しい生活を送る**

コロサイ3章の最後の数節には、教会の平和と調和に対するパウロの関心がはっきりとあらわれています。神の平和については、すでに詳しく見ました(第7課参照)。「ローマの平和」とは異なり、「キリストの平和」(コロ 3:15)は、外から押しつけられる平和ではなく、内部から私たちを「支配」する平和です。そのようなことは、キリストが支配しておられる場合にのみ起こりえます。

問6 コロサイ 3:16、17 を読んでください。具体的にどうすることで、キリストに支配していただけるのでしょうか。その中で、音楽はどのような役割を果たしますか。

ここでの言い回しは非常に描写的で、キリストの言葉が私たちの内に宿る様子を描いています。それは、私たちが神の知恵に耳を傾け、そこから学ぶために、聖書を注意深く読むときに起こります。原語のギリシア語は、やや曖昧ですが、音楽が、「互いに教え、諭し合(う)」〔口語訳「互に教えまた訓戒(する)」〕(コロ 3:16)うえで重要な役割を果たしているようです。

しかし、どのような音楽でもよいわけではありません。パウロは、ここでもエフェソ(エペソ)5:19でも、「詩編と賛歌と霊的な歌」〔口語訳「詩とさんびと霊の歌」〕という非常に具体的な用語を使っています。

確定はできませんが、ここでは既存の旧約聖書の詩編(詩篇)と、増えつつある新約時代の賛歌集を区別しているようです。「霊的な歌」〔口語訳「霊の歌」〕とは、霊的な生活や教会生活に関連する賛美歌全般を指す、より一般的な用語かもしれません。賛美歌の言葉は、真理を教え、新たなクリスチャン人生を送るうえでの指針を与える手段です。過去数世紀にわたる多くのすばらしい賛美歌は、私たちに力強く鼓舞する希望と確信のメッセージを持っており、私たちが容易に落胆させるこの世界において、まさに必要とされているものです。

音楽の影響力は非常に大きいものです。ダビデの堅琴の演奏は、サウル王の心をなだめました(サム上 16:23)。しかし、ダビデがサウル王のライバルになると、王の怒りと妬みは高まりました(同 18:10、11)。穏やかなクラシック音楽は、不安を軽減し、脳の機能を最適化し、リラックス効果を高め、痛みを和らげ、社交性を高めることが臨床的に証明されています。

良きにつけ悪しきにつけ、音楽が私たちの感情や思考に強い影響を与えることを、目の当たりにしたことのない人がいるのでしょうか。音楽、しかも適切な音楽は、私たちが霊的に引き上げることができるのです。

#### 【参考】英語テキストにある文

We are told that whatever we do, “do all in the name of the Lord Jesus” (Col. 3:17). Can you truly say that you do that? If not, how can you change; that is, what must you stop doing if you cannot do it in the name of the Lord?

私たちは何をしても、「すべてを主イエスの名によって行い(なさい)」〔口語訳「いっさい主イエスの名によってなし(なさい)」〕(コロ3:17)とされています。あなたは本当にそうしていると言えるでしょうか。もしそうでないなら、どうすれば変わることができるでしょうか。つまり、主の御名によって行うことができないのなら、何をやめるべきでしょうか。

コロ 3:15~17 (新共同訳)

3:15 また、キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。この平和にあずからせるために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。いつも感謝していなさい。

3:16 キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。

3:17 そして、何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい。

エフェ 5:19 (新共同訳)

5:19 詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かって心からほめ歌いなさい。

サム上 16:23 (新共同訳)

16:23 神の霊がサウルを襲うたびに、ダビデが傍らで豎琴を奏でると、サウルは心が安まって気分が良くなり、悪霊は彼を離れた。

サム上 18:10、11 (新共同訳)

18:10 次の日、神からの悪霊が激しくサウルに降り、家の中で彼をものに取りつかれた状態に陥れた。ダビデは傍らでいつものように豎琴を奏でていた。サウルは、槍を手にしてしたが、

18:11 ダビデを壁に突き刺そうとして、その槍を振りかざした。ダビデは二度とも、身をかわした。

コロ 3:15~17 (口語訳)

3:15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。あなたがたが召されて一体となったのは、このためでもある。いつも感謝していなさい。

3:16 キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくして互に教えたまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい。

3:17 そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。

エペ 5:19 (口語訳)

5:19 詩とさんびと霊の歌とをもって語り合い、主にむかって心からさんびの歌をうたいなさい。

サム上 16:23 (口語訳)

16:23 神から出る悪霊がサウルに臨む時、ダビデは琴をとり、手でそれをひくと、サウルは気が静まり、良くなって、悪霊は彼を離れた。

サム上 18:10、11 (口語訳)

18:10 次の日、神から来る悪霊がサウルにはげしく臨んで、サウルが家の中で狂いわめいたので、ダビデは、いつものように、手で琴をひいた。その時、サウルの手にやりがあったので、

18:11 サウルは「ダビデを壁に刺し通そう」と思って、そのやりをふり上げた。しかしダビデは二度身をかわしてサウルを避けた。

金曜日 3月13日 さらなる研究

「神のみ霊が思いと心を支配すると、改心した人は新しい歌をうたいだす。それは、神のみ約束が彼の経験の中で成就されたからであり、彼の不義は赦され、罪が覆われたからである。彼は、神の律法を犯したことを神に対して悔い改め、人を義とするために死なれたキリストを信じたのである。彼は、『信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得』たのである(ローマ 5:1)。

しかし、この経験が自分の経験であるからといって、クリスチャンは、自分のた

めに成し遂げられたことに満足して、手をこまねいてはならない。霊の王国に入ることを決意した人は、生まれ変わっていない力と熱情が、闇の王国の勢力に後押しされて、こぞって彼に反対することを知るのであろう。彼は毎日、献身を新たにして、悪と戦わねばならない。古い習慣、罪を犯そうとする生来の傾向が、支配力をふるおうとするであろうから、これらに対していつも油断なく見張り、勝利を得るためにキリストの力によって戦わねばならない。……

もっと高く、もっと純潔で、もっと崇高な生活の力が、われわれに大いに必要である。われわれは世俗のことに心を用いすぎ、天の国について考えることがあまりにも少ない。

クリスチャンは、神が彼のために定められた理想に到達しようとする努力において、どんなことにも絶望してはならない。キリストの恵みと力によって、道徳的、霊的完全さがすべての者に約束されている。イエスは力の源、命の泉である。』（『希望への光』1537、1538 ページ、『患難から栄光へ』第45章）。

### 話し合いのための質問

- ① 「信仰によって義とされた」という約束について、あなた自身はどのような経験をしましたか。このすばらしい約束は、あなたの人生をいかに変えましたか。また、この約束は、あなたも「キリストと共に復活した」という考えと、いかに結びついていますか。
- ② あなたにとって、天のことに心を留めるというのは、どういうことですか。それは、地上で善を行うことよりも重要ですか。どうしたらバランスを取ることができそうですか。
- ③ あなたの生活が他者にどのような影響を与えているか、考えてみてください。個人としての影響だけでなく、教会としての影響は、どうでしょうか。あなたの所属教会は、地域社会にどのような影響を与えていますか。
- ④ コロサイ 3:11 を読んでください。この聖句は、キリストにおいて私たちが持つべき一致について、どのようなことを教えてくれますか。

80

#### ロマ 5:1 (新共同訳)

5:1 このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、

#### コロ 3:11 (新共同訳)

3:11 そこには、もはや、ギリシア人とユダヤ人、割礼を受けた者と受けていない者、未開人、スキタイ人、奴隷、自由な身分の者の区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられるのです。

#### ロマ 5:1 (口語訳)

5:1 このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。

#### コロ 3:11 (口語訳)

3:11 そこには、もはやギリシヤ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開の人、スクテヤ人、奴隷、自由人の差別はない。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにいますのである。